

**“どかっつと飲んで、ぼっくり逝こう！”**

**Pattern of alcohol consumption and ischaemic heart disease in culturally divergent countries:  
the Prospective Epidemiological Study of Myocardial Infarction (PRIME)**

【背景】低法人税で急速に膨らんだバルブがはじけて大騒ぎの 아일랜드。経済同様、北アイルランドの人々は、週末にバブルの如く大量の酒を飲むのがライフスタイルだそうで、そのせいで、心筋梗塞死が多いというのがこれまでの定説でした。今回、彼らのアルコール摂取様式と、心血管イベントについて、毎日適度のワインを飲んで上品に暮らすフランス人との比較検討が行われました。

【方法】北アイルランド(Belfast)人 949 名と、フランス(French)人 694 名を、Non-drinker(飲まない)、Binge drinker(どかっつと飲む)と Regular drinker(毎日飲む)、アルコール摂取量と、心血管リスクや、心血管イベントの関係が、まじめに検討されました。

【結果】Belfast は、Non-drinker, Binge-drinker が明らかに多いのに、週当たりのアルコール摂取量が多いことから、どかっつと、スピリッツを大量に飲むライフスタイルが多いことが浮き彫りになりました。アルコール摂取の増加は、喫煙率、血圧、脂質(TG,HDL)に正の相関を示しましたが、French では、DMとは負の相関を示しました。心筋梗塞死などの Hard event のリスクでは、Regular drinker が最も低く、Binge-, Non-drinker では、リスクの上昇を認めました。特にフランスでは、飲めば飲むほど、リスクの低下を認め、原因としてワインの摂取量の関与が示唆されました。一方、狭心症などのマイルドな心血管イベントのリスクには、明らかなアルコール摂取量や飲み方の関与を認めませんでした。

【結論】このように、Belfast では、どかっつと飲んで、ぼっくり逝こうという人生が、French では、ワインを楽しみながら長く生きながらえようとする人生が、それぞれ主流のようです。忘年会シーズン、どかっつと飲んで、尻から倒れるあなた、、**Belfast に乾杯！**。(文責 阿比留)